

鼎談出席者

さつき障害者福祉会  
鴨井 健二さん

吹田市水道部浄水課勤務  
松村 諭さん

吹田市職員労働組合  
執行委員長  
丹羽野和夫さん

# 地震、津波、原発事故、風評被害 急がれる被災地の復旧復興 国、自治体が 役割を発揮する時なのに…

丹羽野 東日本大震災からすでに4ヶ月以上が経過しました。しかし復旧復興は遅々として進まず、被災者はいまだに不自由な避難所や仮設住宅で生活されています。そんな中いち早く被災地を訪問し、支援に入ってもらったお二人をゲストにお迎えしました。まずは自己紹介からお願いします。

## 危険な中、自宅で ひっそり暮らす障害者

鴨井 さつき障害者福祉会で勤務しています。今回の地震と津波被害をテレビで見、「障害者が危ない！」と感じました。4月4日から10日まで被災地に入り、JDF（日本障害者フォーラム）の被災地障がい者支援センターを



これからも支援を続けていきます

災家庭への配布が難しかったようです。

## 1カ月もお風呂に 入っていない障害者も

鴨井 障害者も「崩れかけた家」で生活していません。自宅が完全に壊れた方は親戚の家を点々としていたり。ずっと車椅子から降りられず、高齢者の母親と一週間、自宅で過ごしている障害者もいました。トイレ介助ができない、食事もあり届かないので飢餓状態でした。「障がい者支援センター」にもっと早く連絡があれば、対応できたのですが…。

普段から作業所などの福祉施設に通っている障害者は安否確認がとりやすいのです。しかし、このように自宅で過ごされている障害者にとっては、外部との連携が命。本来は行政が把握しているのですが、その市役所や町役場が流されたりして、まずの手が回らないのです。また安否確認ができるといっても、作業所自体も大変な状況でした。作業所はバリアフリーになっているので、例えば20名定員のある作業所に250名の障害者

立ち上げるため、現地調査をしてみました。その後、現在まで大阪からは毎週福祉作業所職員が、現地に入って支援活動を続けています。

先発隊として避難所を1日に5〜8カ所回りました。しかし避難所には障害者がいなかったのです。段ボール一枚で仕切られている集団生活では、障害者は「うるさい」とか「動き回る」などと、嫌がられてしまうのです。余震が頻繁に起こって危険な中、自宅や知り合いの家でひっそりと過ごしておられる方が多かったです。

## 1週間サイクルで 岩手へ吸水活動に

松村 吹田市水道部の浄水課に勤務しています。地震と津波がライフラインを寸断しました。生活に欠かせないのが水と電気です。日本水道協会が全国的な支援活動を展開しまして、大阪支部は岩手県への派遣となりました。私は3月19日、第2陣として岩手入りしました。一週間サイクル、5月末時点で、

と職員がずっと泊まり込んでいたのです。約200名の障害者に50名の職員が、ギューギュー詰めになって。中には「一ヶ月もお風呂に入っていない」という障害者もおられました。

## 公園の給水活動で 大喜びされた経験も

松村 震災直後だったので私も宿泊場所が決まらない中で、救援活動でした。親切的な自治会長さんがおられて、「家に泊まり」と。活動1日目はご自宅にお世話になりましたが、自治会長さんは被災者の受け入れもされておられ、私たちが泊まれば、新たな被災者が泊まれなくなるので、ご厚意を遠慮しました。実際に公園で給水活動をはじめると、みなさん大喜びでした。遠くから20リットルのタンクを担いで順番待っていたので、最初は台車もなかったもので、年配の方には、一緒に担いで家まで持って行きました。東北の方々は謙虚なので、大きな袋に水を入れようとすると、「私は小さいのでいいです」と遠慮さ



鴨井 健二さん

吹田からは延べ100人くらい被災地入りしました。最初は現場も混乱していて、どこで何をしたらいいかわかりませんでした。本部の盛岡市へ行き、第1陣は宮古市で活動したのですが、私たち第2陣からは大船渡市へ。以後、大船渡では主に吹田市と豊中市が給水活動に当たりました。

丹羽野 早い段階で現地に入られたお二人なので、大混乱の中の救援活動だったと思います。例えば給水車で現地入りするのも一苦労だったとか。

## 市役所自体が被災し 職員も足りず右往左往

松村 地震直後に大雪が降り、第1陣ではスリップする車もあったようです。地震のために道路が寸断されていて、どこどころ穴があき、危険な箇所も

れるのです。これが大阪なら「大きいのに入れて」となるでしょうね(笑)。

テレビで見えていましたが、実際の津波被害は想像を絶するような大災害でした。しかしそんな中でも人々はたくましく生きようとしていました。水道部で仕事をして10年目ですが、これほど人々に喜ばれる仕事をしたのは初めてでした。

## 行政によって対応や 情報把握に差が

丹羽野 この震災では、市町村役場が災害対策本部となり、あらためて自治体の役割が重要だと感じました。現地自治体職員のがんばりはいかがでしたか？

鴨井 避難所では職員の方々が受付をして、きめ細かな情報提供や食事提供などで奮闘されて



福島県郡山市の「障がい者支援センターふくしま」



松村 諭さん